

平成30年度 指導案集

1. はじめに	校長	新開 眞琴	1
2. 表現	幼稚部	廣瀬 葵	2
3. 表現・環境※	幼稚部	木村 明海	10
4. 図画工作（4年）	小学部	寺井 伸太郎	12
5. 自立活動・歩行（1年）※	中学部	中野 純子	19
6. 自立活動・運動（1・2・3年A組）※	中学部	仙田 和枝	21
7. 特別活動（2年）※	中学部	有吉 正記	23
8. 自立活動・リズム（1・2・3年C類型）	普通科	成相 純太	25
9. 保健体育概論（専攻科保健理療科1・2年）※普通科	普通科	上田 航	31
10. 自立活動・個別（3年C類型）※	普通科	牧内 直子	33
11. 合同英語（1・2・3年）※	普通科	滝口 寛紀	35
12. あん摩（専攻科保健理療科2年・理療科2年）※理療科	理療科	下川 浩史	37
13. 基礎保健理療（専攻科保健理療科1年）※理療科	理療科	富田 千文	38
14. 人体の構造と機能（専攻科保健理療科1年）※理療科	理療科	西谷 信和	40
15. 臨床応用（専攻科理療科3年）※	普通科	西山 徹	41

※は指導略案

大阪府立大阪北視覚支援学校

はじめに

本校は視覚に障がいのある幼児児童生徒を対象にした特別支援学校です。

幼児児童生徒の個々の実態に応じた専門性の高い教育を行い、社会参加への力を育成することを目標に掲げています。本校では年々、幼児児童生徒の障がいの重複化が進んでおり、重複障がい幼児児童生徒への実践と記録を重ねることが求められています。また幼児児童生徒数も減少傾向にあり、それに伴い、転勤や退職で教員数が減少してきています。その中で、学校組織としての視覚障がい教育の専門性の維持・継承・発展が必要不可欠です。

そのような現状の中、平成 29 年度学校経営計画に「すべての教員が 3 年ごとに一度研究授業を実施し、授業力の向上と視覚障がい教育の継承を図る」ことを掲げ、一年間全校を挙げて研究授業に取り組んでまいりました。またそのような研究授業体制に向けて、学部ごとに研究授業アドバイスシートを作成し、研究授業の効率的なフィードバックにも努めてまいりました。

本冊子は今年度実施された研究授業の学習指導案 15 本を収録しています。本冊子を本校教職員及び多くの教育関係者に公開することで、多方面からご示唆をいただき、さらなる本校の授業改善と視覚障がい教育の維持・継承・発展へと繋げていくことを目的としています。

皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願いいたします。

平成 31 年 3 月吉日

大阪府立大阪北視覚支援学校

校 長 新 開 眞 琴

「表現（音遊び）」保育指導案

指導者 T 1	廣瀬 葵
T 2	小林 淳子
T 3	岩田 美穂
T 4	植垣 玉貴
T 5	船津 道子
T 6	木村 明海

1. 日時 平成30年〇月〇日（〇） 第2時限（9：50～10：35）
2. 対象 幼稚部3・4・5歳児 幼児6名
3. 場所 幼稚部そらの部屋
4. 単元名 「ねずみさんを驚かそう」
5. 単元の目標
 - ・音遊びを楽しむ。
 - ・友だちや教師と一緒に楽しむ。

6. 指導にあたって

（1）幼児観

本校の幼稚部は、5歳児3名、4歳児1名、3歳児2名の計6名で構成され、見えの状態はさまざまである。また、肢体不自由をあわせもち、他の訓練機関へ併行通園している幼児もおり、登校してくる人数は曜日によって変わる。

リズムの時間（月～金の2時間目）には、身近な人とふれあい遊びをしたり、季節の歌を歌ったりする活動を通して、音楽に親しんでいる。初めての活動に対して不安が強い幼児も多いが、歌に合わせることで楽しんで活動に参加できる事が増えてきている。歌う時には、手拍子や足踏みなどの動きを取り入れたり、楽器演奏をしたりもしている。1学期には、タンバリン、鈴、小太鼓、トライアングルを使い、2学期には、和太鼓や鳴子を使って、楽器演奏を楽しんだ。

また、1学期には「はらぺこあおむし」のおはなしを取り入れた活動を通して、楽しみながらおはなしの内容を知る事ができた。楽しい活動は「一番にやりたい」、「何回もやりたい」という気持ちを強く持っている幼児が多い。気持ちの表出が難しい幼児も一度、教師と一緒に取り組むことで、安心して表情や声で楽しいことを伝えている。

1学期中は新入児が2人いたため、幼稚部生活に慣れるために身近な大人との関わりを楽しむ活動が多かったが、少しずつ友だちを意識してきているので、2学期は友だちとの関わりがこれまでより多く見られるように思う。

（2）教材観

本題材「ねずみさんを驚かそう」は、音遊びを楽しむ活動（ゲーム）である。この題材は、「ちいさなたまねぎさん」という絵本を基にしている。絵本の内容は、悪いねずみさんを退治するために、野菜や調理器具などの台所の仲間たちが一丸となって奮闘するおはなしである。今回は、

ねずみさんに捕まった仲間(友だち)を助けるために、幼児たちが調理器具を使って音を出し、ねずみさんを驚かすという事にした。ねずみさんが出てくる→捕まえる→助けを求める→音を出して助ける、この単純な事の繰り返しで楽しめる教材である。初めての活動でも馴染みやすいように、「ねずみさんがきたよ」という替え歌を用意した。その歌に合わせて、ねずみさん役の教師は動き、歌の終わりに幼児の1人を捕まえる。捕まった仲間を助けるために、他の幼児たちは、道具(調理器具)を使って、音を出す。この時、音の違いも楽しめるように、5種類の調理器具(おたま、泡だて器、フライ返し、プラスチックのボウル、ステンレスのボウル)を用意し、組み合わせを替えながら使う事にする。

(3) 指導観

音遊びを通して、友だちと一緒に活動することの楽しさや喜びを感じられるようにしていきたい。まずは、幼児たちが「仲間」であるという一体感が持てるように、「ねずみさんなんてこわくない」という歌と一緒に歌って気持ちを盛り上げる。

幼児の見え方はそれぞれに違いがあるので、ねずみさんの所在を認識しやすいように、ねずみさん役の教師はチュウチュウと音の鳴るおもちゃを持って、幼児たちの前を歩く。歩いている間は、ピアノに合わせて一緒に「ねずみさんがきたよ」の歌を歌い、ねずみさんに捕まるのは誰なのかというドキドキした気持ちを持たせる。また、ねずみさん役の教師はねずみさんに扮した格好をしたり、低い声で話したりすることで、普段の様子とは異なる雰囲気を作り、捕まる事に対する抵抗感を抱かせる。

ねずみさんが仲間の一人を捕まえると、幼児たちそれぞれに付いた教師は、言葉掛けなどで捕まった仲間に注目をさせるようにする。幼児たちには仲間を助けるために、ねずみさんに向かって、道具を使って音を出させる。それに対して、ねずみさんが驚いて声を出したり、体を動かしたりする。このような繰り返しをすることで、音遊びの楽しさ、仲間を助けようとする気持ちを持たせる。また、捕まった幼児には、仲間に対して声を出して助けを求めさせる。

前回の活動を休んで参加できていない幼児に対しては、その幼児の側に付いた教師が様子を見ながら、遊び方について伝える。ねずみさん役の教師は、幼児たち一人ひとりの表情や反応に応じて、ねずみさんの言葉と動き方を工夫する。

7. 評価の観点

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音の違いに気付いている。 ・道具を使って、音を出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って、音を出すことを楽しんでいる。 ・友だちを助けようとしている。 ・友だちに助けを求めている。 ・友だちや教師と一緒に楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんを驚かそうとしている。 ・歌を歌ったり、声を出したりしている。 ・ねずみさんに対して、大きな音を出そうとしている。

8. 指導計画（全4時間、本時は第4時）

時	活動内容	評価規準		
		A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に登場する野菜を触る。 ・絵本のおはなしを聞く。 			○
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のおはなしを聞く。 ・調理器具(道具)に触れ、形や音を知る。 ・ねずみさんの鳴き声が近づくと、音を出すやりとりを 	○	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具(道具)を使い、音を出して楽しむ。 ・道具の種類によって、音の違いがあることを知る。 	○	○	○
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんを驚かすために、調理器具(道具)を使って、音を出し、仲間を助ける。 	○	○	○

9. 本時

(1) 本時の目標

- ・道具を使って、音を出す。
- ・友だちや教師との関わりを楽しむ。

(2) 本時の評価の観点

- ・道具を使って、音を出している。
- ・仲間を助けるために、ねずみさんを驚かそうとしている。
- ・仲間に助けを求めようとしている。
- ・歌ったり、声を出したりして活動を楽しんでいる。

(3) 本時で扱う教材・教具

箱いす、チュウチュウと音の鳴るおもちゃ、調理器具（おたま、泡だて器、フライ返し、プラスチックのボウル、ステンレスのボウル）、
替え歌（ねずみさんなんてこわくないの歌、ねずみさんがきたよの歌）、

(4) 幼児の実態と本時の目標

	幼児の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	5歳児、男子、弱視 ・繰り返し取り組む	・ねずみさんが驚く音を意識しながら	・仲間と協力すれば、大きな音が出るこ	・道具を使って、大きな音を出してい

	<p>ことで簡単なルールのある遊びの理解ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信のあることには積極的に発表や参加をしようとする。 	<p>道具を使って、音を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんから友だちを助けようとする。 	<p>とに気づけるように言葉掛けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が最初に助けようという気持ちを持てるような言葉掛けをする。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんが驚いていることを理解して、楽しんでる。 ・友だちが助かったこと喜んでる。
B	<p>5歳児、女子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音が明瞭ではないが、先生や友だちの名前を呼んだり、気分のいい時は歌ったりする。 ・簡単な指示を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って、音を出す。 ・友だちと一緒に音出しすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に楽しめるよう言葉掛けをする。 ・最後まで楽しめるように、「またねずみさん来るで」など見通しを持って取り組めるような言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人で道具を持ち、音を出している。 ・友だちを助けるために名前を呼んでいる。 ・歌うことを楽しんでいる。
C	<p>3歳児、男子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本が好きで、おはなしをよく聞いている。 ・友だちを意識していて、自ら声をかける時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんに向かって、道具を使って、音を出す。 ・楽しかったという満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って、音出しができていれば、褒める。 ・ねずみさんの反応を見て、より楽しめるように、「ねずみさん驚いているね」「耳が痛いって言っていたね」など共感できる言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って、音を出している。 ・ねずみさんの反応を気にしながら楽しんでいる。 ・歌ったり、声を出したりして楽しんでいる。
D	<p>3歳児、女子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある話はよく聞こうとする。 ・動きを見て真似ることができる。 ・友だちの発言をよく聞き、動きをよく見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんの動きを見ながら、道具を使って、音を出す。 ・仲間に助けを求めるときに言葉で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に楽しめるように言葉掛けをする。 ・積極的に取り組めるように、音を出すことができれば褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って、音を出している。 ・助けを求める声を出している。 ・友だちやねずみさんのやりとりを見て、笑ったり、声を出したりしている。
E 本時は欠席	<p>5歳児、男子、盲弱不明、肢体不自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな歌を聞くと笑顔になる。 ・声や音のする方を意識してよく聞いている。 ・握ることを意識すると、力加減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を握ったまま音を出す。 ・友だちや先生と一緒に活動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を握った方の肘あたりを支えながら手を動かす。 ・側についた教師がねずみさんや友だちの様子を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って音が出ることを楽しんでいる。 ・ねずみさんの動きを注意して聞いている。

	ことができる。			
F 本時は欠席	<p>4歳児、男子、盲弱不明、肢体不自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンポンなど言葉と一致した音が出ると、喜ぶ。 ・好きな歌を聞くと笑顔になったり、声を出して喜んだりする。 ・予期せぬ生活音に対して驚き、発作が出る時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音に慣れ、のびのびと活動する。 ・友だちや先生と一緒に活動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音に敏感なため、活動中の様子を見ながら、耳栓等を使って配慮する。 ・活動を楽しめるように繰り返し経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で、道具を持っている。 ・音を出そうと手を動かそうとしている。

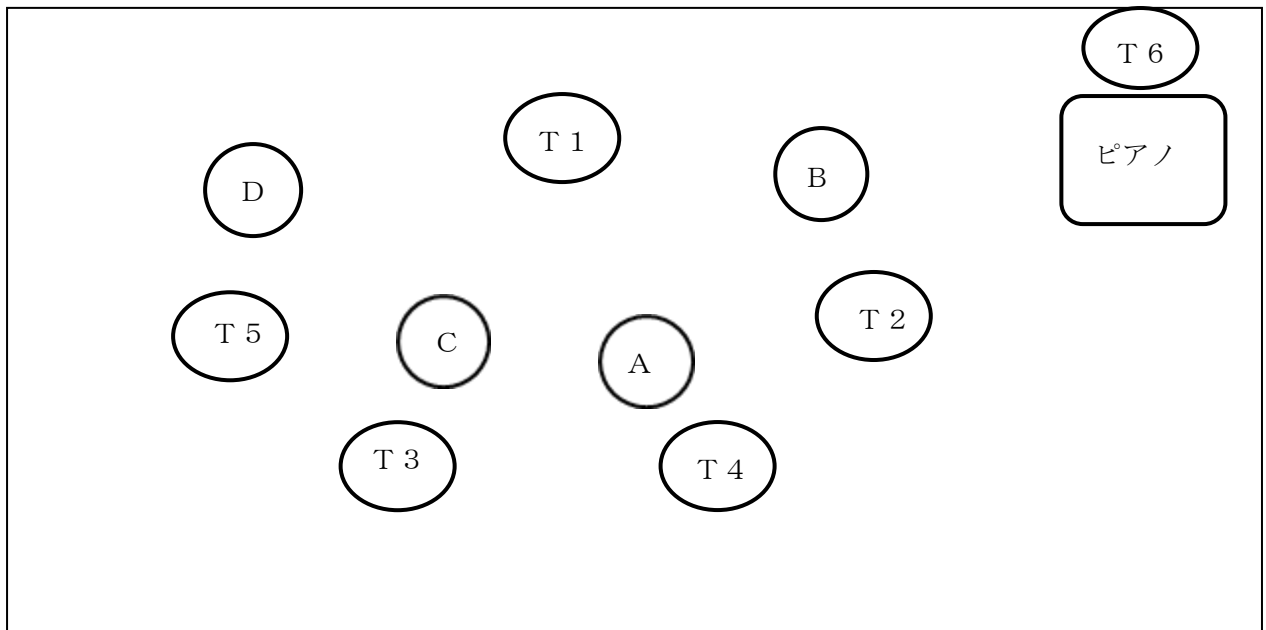
(5) 本時の展開

時間	活動内容	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
9:50	<p>○始まりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじまりの歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境で始められるように、一人ずつの子どもの側にTが付く。 ・T4は、A児の姿勢が崩れないように、声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びをしたり、歌を歌ったりして楽しんでいる。
10:05	<p>○手遊びをしたり、歌を歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちょこちょさん ・のねずみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ曲から始めることで気持ちを盛り上げるようにする。 ・T2～T5は、A～D児が楽しめるように、一緒に歌を歌いながら子どもたちに関わる。 	
	<p>○「ねずみさんを驚かそう」のゲームを始めるための話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返られるよう言葉掛けをする。 ・C児は前回の活動に参加していないため、T3は様子を見ながら言葉掛けをする。 	
	<p>○ねずみさんを驚かすための音(道具)を一人ずつ選んで決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5種類の道具から2つの道具を選ぶ。 ・自分から選べない場合は、実際に音を出してからどちらがいいか選べるようにする。 	

	<p>○円形になって座るために、箱いすを動かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移動後の友だちとの位置関係が分かるように、T1が名前を呼び、呼ばれた子どもには、音を出させる。 	
10:15	<p>○ねずみさんが来る前に、音出しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねずみさんなんかこわくない」を歌う。 <p>○ゲームを始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねずみさんがきたよ」を歌う。 ・仲間のうち1人だけ捕まる。 ・捕まった1人は仲間に助けを求める。 ・捕まえられた仲間とねずみさんが前を通る時に、道具を使って音を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「仲間」であるという一体感をもって活動に取り組めるように、歌で気持ちを盛り上げる。 ・T1は、ねずみさん役となり現れて、歌の終わりまで子どもたちの前を歩く。 ・T2は、慣れない活動に対してもB児が安心して参加できるように、楽しく一緒に歌を歌う。 ・T1は、歌の終わりに子どもの一人を捕まる。捕まえた子どもに対して、低い声で話しかける。 ・捕まった子どもには、助けを求めるように周りのTが声をかける。 ・D児は、小さな声で発言する事が多いので、T5は、その言葉を拾って共感する。 ・T1は、捕まえた子どもを抱えて、他の子どもたちの前を通っていく。 ・T1は、子どもたちの様子や実態に合わせて、動く速さ、声の大きさなどを変えながら動く。 ・T1は、2つの音のうち、どちらかの音を嫌がっている事を伝え、その音がする道具を持っている子どもに、より大きな音を出させる。 ・T1は、大きな音を嫌がり、捕まえた子どもを元の場所に戻して、退散する。 ・捕まっていた子どもの側についてTは、子どもが助けてくれた友だちに 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねずみさんに捕まるかもしれないというドキドキした気持ちを抱きながら、歌ったり声を出したりしている。 ・仲間に助けを求めようとしている。 ・ねずみさんを驚かそうとしている。 ・道具を使って、音を出している。

10:35	<p>○ゲームを終える。</p> <p>○終わりのあいさつをする。</p>	<p>対して「ありがとう」という気持ち が持てるような言葉掛けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの楽しいと思う気持ちに 共感し、もっとしたいという気持ち を引き出すようにする。 ・子どもたちの様子を見ながら、ゲー ムを繰り返す。 ・道具を回収する。 ・仲間を助けるために頑張っていたこ とを褒める。 	
-------	---------------------------------------	--	--

(6) 座席配置図 (正面を上にして、幼児や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)



資料 1

「ねずみさんなんかこわくない」の歌
(おおかみさんなんかこわくないの替え歌)

チュウチュウ 鳴いても こわくない
こわくないったら こわくない

なかまがいれば こわくない
おどかすぞー！ オーッ！

資料 2

「ねずみさんがきたよ」の歌 (ロンドン橋の替え歌)

ねずみさんが来たよ
来たよ 来たよ

ねずみさんが来たよ
チュウチュウ 来た

「表現・環境（リズム）」保育指導案（略案）

指導者	T 1	木村	明海
	T 2	小林	淳子
	T 3	岩田	美穂
	T 4	植垣	玉貴
	T 5	廣瀬	葵
	T 6	船津	道子

1. 日 時 平成30年〇月〇日（〇） 第2時限（9：50～10：30）
2. 対 象 幼稚部3・4・5歳児 幼児5名
3. 場 所 幼稚部そらの部屋
4. 単元名 「寒天遊び」
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・友だちや先生と寒天の感触に慣れたり、楽しんだりする。

6. 本時の展開

	保育の流れ	指導・支援	留意点・評価規準 視覚障がいの専門性
導 入	○はじまりの挨拶をする。 ○ふれあい遊びをする。 ♪エネルギービリビリ ♪クルックルツ ○汚れても良い服（幼稚部用）に着替える。	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスさせ、楽しい雰囲気作りをする。 ・手指先を意識して動かせるように、声かけをする。 	教師とのかかわりを楽しんでいる。【態】 手指先を自分なりに動かそうとしている。【技】
展 開	○寒天遊びをする <ul style="list-style-type: none"> ・注意することを聞く。 ・寒天で遊ぶ。 ・寒天の中に入っているものを探す。 ・たらいに寒天を移して手足を使って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口に入れたり、投げたりしないことを伝える。 ・触るのが苦手な子どもには、実態に応じて声をかけ、触らせ方を工夫する。抵抗のない子には、寒天の感触を楽しみながら見立てつくり遊びへ発展させる。 ・寒天の中にビー玉やスーパーボールなどを入れたり、食紅で色をつけたりして興味を持たせる。 	教師の話を聞こうとしている。【態】 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペースで、少しずつ寒天の感触に慣れるようにする。 ・寒天の色がわかりやすいように、容器の色を工夫する。【専】

		<ul style="list-style-type: none"> ・手だけでなく、足を使っても楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口や顔に寒天がついた場合、すぐに拭けるよう濡れタオルを準備しておき、安全に配慮する。
まとめ	<p>○おわりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番にテラスで身体を綺麗に洗う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体についた寒天を綺麗に洗う。 	<p>教師の話しを聞こうとしている。【態】</p>

7. 準備物

- ・寒天
- ・汚れても良い服（幼稚部用）
- ・ビニールシート
- ・空き容器
- ・たらい
- ・タオル（顔用・身体拭き用）
- ・箱椅子

「図画工作科」学習指導案

指導者 T 1	寺井 伸太郎
T 2	田中 良子
T 3	丸橋 由佳

1. 日 時 平成30年〇月〇日 (〇) 第5時限 (13:25~14:10)

2. 対 象 小学部4年〇組 児童4名

3. 場 所 小学部4年A教室

4. 単元名 「油ねんどで作ろう!野菜とくだもの」

5. 単元の目標

- ・野菜や果物の模型を触ったり見たりして、形を捉える。
- ・手や用具を使って、イメージした形を油ねんどで表す。
- ・友だちの作品を触ったり見たりして、作り方や形の違いの良さを感じる。

6. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級には弱視の児童が2名、全盲の児童が2名の計4名が在籍している。そのうち3名が単一障がい、1名が重複障がいの児童である。全員が物を作ることがとても好きで、図工の授業に意欲的に参加することができる。教師の話をしっかり聞いて考えることができ、一人ひとり集中して活動に取り組むことができる。また、自分の意見を積極的に伝えようとする児童が多く、すすんで手を挙げて元気に発表することができる。しかし、整理をして話すことが苦手な児童もいるため、教師が発表する時間を定めたり、話す内容を限定したりする必要がある。教室の空間把握では、普段から同じ教室で生活しているため、自分の座席からロッカーまでを、往復することができる。しかし、児童同士の衝突を防ぐために教師が見守っておく必要がある。触察の能力では、果物や野菜の模型を触った時に、全員が何を触っているのか言い当てることができる。しかし、物の凹凸の細かいところまで意識して触る経験が普段の生活で少ない。

ねんど制作は、1年生では油ねんどでだんご作りやひも作りを学習し、紙ねんどでお弁当作りに取り組んだ。2年生ではだんご作りやひも作りに加え、ひねりだしの技法で動物のしっぽや足を作る学習をした。また紙ねんどでケーキ貯金箱を制作した。3年生では紙ねんどでフォトフレームを制作した。しかし、だんごの形やひものような細い形を作ることはできていても、自分のイメージする作品を作る際には、まだこれらの技法を活かすことができていない。また、一人で試行錯誤しながら取り組もうとしているが、経験不足により簡単な形での組み合わせの作品に留まっている。立体作品の制作であっても、平面的な形になりがちである。ねんど制作に用いるヘラについては、持ち方が悪いことや手首をまっすぐに向けていないことから、うまくねんどを切ることができず作品作りに活かせていない状況である。

(2) 教材観

本単元では、模型を触って、ねんどで模倣する活動を行う。模型は果物や野菜の形をしたもの

を使用する。野菜や果物は日頃から触ったり食べたりしていて、児童にとって馴染みがあるものである。知っているものを触ることで、主体的に活動できると考える。また、模型を触ることで、触察の能力を高めるための経験にする。そのために、模型を注意深く触り教師と言葉のやりとりを通じて、ものの細かい情報を手や指先で捉えられるようにする。

油ねんどはこれまでの学習で何度も使用しており、児童にとって馴染み深い教材である。指先でやさしく撫でると傷や凹みがなくなるので、本単元で選んだ。また、ねんどは手に力を込めることや指先を使った小さな動きが必要な教材である。様々な形を作る活動に取り組むことで、ねんどを手のひらで押ししたり握ったりするなど、手の様々な使い方が身につくと考える。ねんどで様々な形を作ることができるようになることで、ねんどを使う楽しさも味わえるようにする。また、日常生活では道具を使う経験が少ない。そのため本単元ではヘラを使ってねんどを切ったり、すじを描いたりする活動を行う。何度も切ったりすじを描いたりする中で、ヘラを使って物を作ることの楽しさが感じられると考える。ねんど制作でヘラを使うことにより、日常生活での動きに繋がると考えた。

本単元では最後に、クラスの友だちが作った作品を触って鑑賞する。鑑賞を最後に行うことで、友だちの作品の工夫や面白さを感じることができると考えた。

(3) 指導観

自由に取り組むと作品が小さくなる傾向があるので、ねんどを決められた量の全てを使うよう声掛けをして、大きな作品を作ることができるようにしたい。把握した模型の特徴を表現しやすくするために、大きな作品を作ることができるようにする。また、日常生活ではさみなどの道具を使う経験が少ないので、本学習を通してヘラを使うことで、道具を使って物を作る感覚と楽しさを感じてほしい。本単元ではヘラを使って切ることと、すじを入れることをできるようにする。模型の形を作る際もこの2つの方法も活用して作ってほしい。模型を触る時には、手のひら全体で触ったり、指先で触ったりして、目的に応じた触り方をできるように指導する。ねんどを形作る時は、どんな方法で作るのかを児童と話し合いながら決めるようにし、形や模様工夫して作品を作り上げるようにしたい。第2次のイメージした形をねんどで作る時は、第1次に取り組んだ、ねんどを形作る方法を思い出すことができるように声掛けをする。

7. 単元（題材）の評価の観点

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
① 主体的にねんどで形を作ろうとしている。 ② 手指全体を使って模型を触って形をイメージできるようにしている。 ③ 友だちの作品を	① イメージした形を、どうしたらその形が作ることができるのかを考えて作ることができる。 ② 手やヘラを使い、様々な技法で形を作ることがで	① 触った形がわかり、意識して形作ることができる。	① 様々な形の作り方を理解し、ねんどを形作ることができる。 ② ヘラの使い方を知り、ねんどで表現することができる。

触ったり見たりして、自分の意見を言うことができる。	きる。		
---------------------------	-----	--	--

8. 単元の指導と評価の計画（全4時間、本時は第3時）

次	時	学習内容	評価規準			
			A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
第一次		・ねんどを使って四角形や球の作り方を 知る。	①		①	①
		・ねんどで直方体やたまの形 などを作り、積み上げる。 ・模型を触って形の特徴を 発		①	①	②
第二次	本時	・模型を触って形をイメージ する。 ・イメージした形をねんどで 表現する。	②	②	①	
		・模型を触って形をイメージ する。 ・イメージした形をねんどで 表現する。 ・友だちの作品をやさしく触 って鑑賞する。	③	①		

9. 本時

(1) 本時の目標

- ・模型を触って形を把握する。

- ・手を十分に使ってねんどを触る。
- ・模型の形を捉え、ねんどを使って表現する。

(2) 本時の評価規準

- ・関心・意欲・態度
 - ②手のひら全体を使って模型を触って形をイメージできるようにしている。
- ・思考・判断・表現
 - ②手やへらを使い、様々な技法を使って形を作ることができる。
- ・技能
 - ①触った形がわかり、意識して形作ることができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

油ねんど、ねんど板、へら、雑巾、下敷き、模型(たまねぎ、りんご、みかん、にんじん、バナナ、かき、さつまいも、もも、ピーマン、レモン)

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	4年女子、全盲 自分から意見や思いを相手に伝えることができる。 へらなどの道具を使うときは、教師の動きを模倣できないので、言葉掛けや、手を添えることで援助する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を触ってももの形を捉えることができる。 ・へらを適切に使い、表現することができる。 ・触った形を意識してねんどで形作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような形になっているのかを尋ねることで、模型の細かい特徴を捉えられるようにする。 ・声掛けでどのように形を作るのか考えさせる。 ・へらを使う時は、言葉掛けや手を添えて援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形をイメージできるように模型を触っている。 ・手やへらを使い、様々な技法を使って形を作ることができる。
B	4年女子、弱視 一人で集中して活動することができる。自分なりに形作るとはできるが、細部まで作ることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を見たり触ったりして、細部まで形を捉えることができる。 ・へらを適切に使い、工夫して表現することができる。 ・ねんどを、手のひらや指先を使って形 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような形になっているのかを尋ねることで、模型の細かい特徴を捉えられるようにする。 ・声掛けでどのような形を作れば良いか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形をイメージできるように模型を触っている。 ・手やへらを使い、様々な技法を使って形を作ることができる。

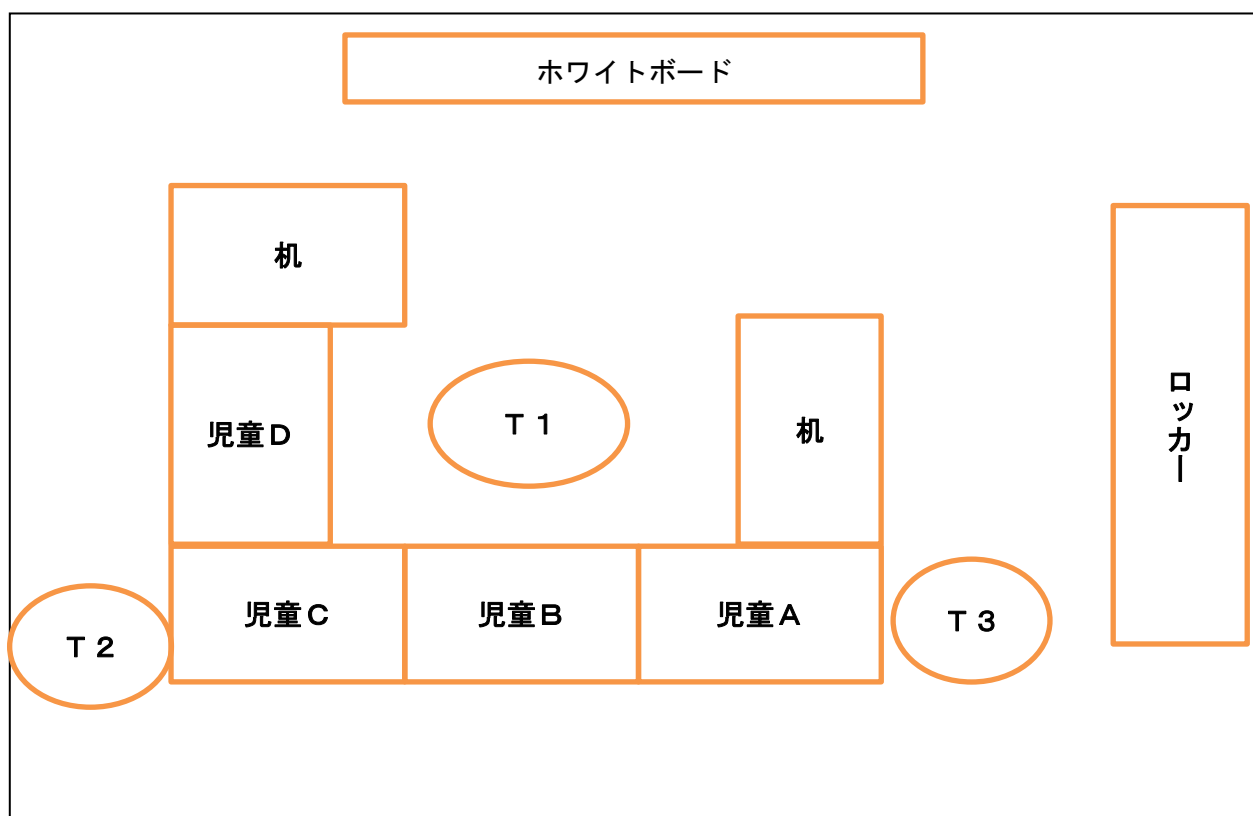
		作ることができる。		
C	<p>4年男子、全盲。手指の分化が遅れているので、一人で作業することは難しい。教師と一緒に作業に取り組む必要がある。</p> <p>全体での指導では指示されたことを理解できていないこともあるので、そばについている教師の援助が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を触ってももの形をおおまかに捉えることができる。 ・ヘラを使い、表現することができる。 ・ねんどを丸めたり、ちぎったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の指示が理解できているのか確認する。理解できていない場合は個別に指導する。 ・どのような形になっているのかを尋ねることで、模型の形を捉えられるようにする。 ・声掛けでどのように形を作るのか考えさせる。 ・ヘラを使う時は、教師が手を添える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を触り、おおまかな形をイメージすることができる。 ・触ってイメージした形を意識して作ることができる。
D	<p>4年男子、弱視。一人で作業することができる。教師からのアドバイスや提案も取り入れながら、自分の作りたい作品に仕上げるることができる。自分なりの作品を作ることにはできるが、大きくおおまかな形で作る傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を見たり触ったりして、形を捉えることができる。 ・ねんどを、手のひらや指先を使って形を作ることができる。 ・ヘラを適切に使い、工夫して表現をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような形になっているのかを尋ねることで、模型の細かい特徴を捉えられるようにする。 ・声掛けでどのように形を作るのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形をイメージできるように模型を触っている。 ・手やヘラを使い、様々な技法を使って形を作ることができる。

(5) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの挨拶をする。 ・ 今日の授業の内容を確認する。 ・ 前回触った模型の特徴を思い出して、発表する。 ・ 自分の作りたい模型を選ぶ。 ・ ねんどを軟らかくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室を児童が移動しているときはぶつからないように注意しておく。 ・ ねんど、ねんど板、濡れた雑巾が机の上に用意されていることを確認する。 ・ 授業の流れを説明して、見通しを持たせる。 ・ 前回の授業で触った模型をそれぞれの児童に渡して思い出させる。 ・ 児童Cが発表する時に困っている様子であれば、前回の授業を思い出して答えられるようにT2が声掛けをする。 ・ 野菜や果物の形の模型をかごに入れて児童に一人一つずつ選ばせる。（この活動をしている時に、T3がお湯を使ってねんどを温める。） ・ 小さく小分けにして、順に軟らかくしていくように指導する。 ・ ねんどを軟らかくする力がない児童には、教師が援助する。 	
30分 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘラを使ってねんどを切る。（復習） ・ 模型を触って形を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘラを使う時の腕や手首の使い方に注意する。上手く使えていないようであれば、使い方を指導する。（T2は児童C、T3は児童A） ・ 模型の特徴を捉えられるように声掛けをする。（T2は児童C、T3は児童A） 	【A②】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ねんどを手のひらの大きさだけ使い、形を作る。 ・ねんどを全体の半分使って形を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けをしたり手を添えたりすることで、触った形の特徴を捉えられるようにする。(T 2は児童C、T 3は児童A) ・イメージした形をねんどで作るために、どのような方法で形にするか考えさせる。(T 2は児童C、T 3は児童A) 	【B②】【C①】
5分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の話聞く。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6時間目に、引き続いて授業をすることを伝える。 	

(6)座席配置図(正面を上にして、児童生徒や教師の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)



「自立活動（歩行）」学習指導案（略案）

指導者 中野 純子

1. 日 時 平成30年〇月〇日(〇) 第1限 (8:50~9:40)
2. 対 象 中学部1年生 生徒1名
3. 場 所 ピロティ~地下鉄だいどう豊里駅
4. 単元名 白杖による目的地歩行
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・白杖を適切に操作し、手がかり（ランドマークや環境要因等）を活用して安全に歩く。
 - ・前年度練習した北側ルートに対して、南側ルートを練習し、道路環境や自分に適したルートを設計する。
 - ・自力下校をめざし、地下鉄駅まで安全に単独で歩行する。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	評価規準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りと本時の学習内容の確認する。 ・本日の歩行経路を口頭で指導者に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のおもな課題は地下鉄駅の改札口に至る下り階段の発見であることを伝える。前時までに定着できたことと、本人の目標を述べさせ、意欲を高める。 ・理解の状況を確認し、自信をもって安全に歩けるよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力下校に向けて、関心と意欲とをもって本時の目標をたてることができる。 ・前時までの練習を元に、歩行経路を口述し、歩行の留意事項を思い出すことができる。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・正門を開錠し、正門筋から地下鉄通りに向かい、横断位置を確認する。 ・地下鉄通りを東に向かい、南側ルートで歩き、サヴォイ筋の横断位置を確認する。 ・サヴォイ筋を安全に横断し、地下鉄駅の入り口を発見し、着いたことを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に白杖を操作し、伝い歩きが出来ているかを確認し、必要に応じて、安全に歩けるよう声をかける。 ・歩行技術や環境への判断等を、適宜評価する。 ・駐車車両があるときや突発的な事態に対しては、必要に応じて手引きで安全を確保する。 ・達成状況、本人の様子、天候に応じて練習内容を変更するなどの判断をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・門扉の開錠を適切に行い、正門通りに出ることができる。 ・次のような白杖の基本操作が適切にできる。 <ul style="list-style-type: none"> ・白杖による伝い歩き ・グレーチングの変化を捉え、現在地を定位すること ・障害物の検知及び回避 ・白杖の振り幅の変化の感知 ・横断位置の発見と安全な横断

	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きを受けて学校へもどる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・往路の練習を振り返りながら、要所での留意事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の形状等の変化の感知 ・視覚障がい者誘導用ブロックを伝って歩くことができる。 ・南北ルートの違いについて考察できる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄通りの歩行ルートについて、本人の感想を聞きつつ、次回の予定を伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と目標について考え、次回の見通しをもつことができる。

「自立活動（運動）」学習指導案（略案）

指導者	T 1	仙田	和枝
	T 2	吉田	拓未
	T 3	中林	輝一
	T 4	宮口	都史子
	T 5	成元	雅子

1. 日 時 平成30年〇月〇日（〇） 第3時限（10：50～11：40）
2. 対 象 中学部1・2・3年A組 生徒5名
3. 場 所 プレイルーム
4. 単元名 体づくり（ヨガ）
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす感覚や楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、ボディイメージや動きを持続する能力などを高める。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	留意点・評価規準
導入 （5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・靴下を脱ぐ ・本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける。大きな声で挨拶をさせる。 ・靴下を自分で脱ぐように促す。 ・健康観察を行う。 ・本時の予定を伝え意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶することができる。 ・靴下が脱げる。 ・話を静かに聞き言葉で伝えることができる。
展開 （35分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガを行う。 ・息を吐きながらリラックスして動く。 ・楽しみながら動く。 ・最後にくつろぎのポーズでからだをゆるめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背筋を伸ばし、大きく息を吸い込む、息を吐く、基本姿勢をとらせる。 ・リラックスさせる。無理をさせないこと。 ・曲に合わせてヨガを行う。 ・からだの部位を確認する。 ・からだを大きく動かすことができるように動作の確認をし、支援する。 ・友達と一緒にヨガができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい基本姿勢がとれる。 ・曲に合わせて楽しく体を動かすことができる。 ・自分からヨガをしようとしている。 ・友達と関わることができる。

まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ ・ 挨拶 ・ 後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を振り返らせる。 ・ 大きな声で挨拶をさせる。 ・ 靴下を履くように支援をする。 ・ マットを片付けるように支援をする。 ・ 必要に応じて声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんばったことを発表することができる。 ・ 大きな声で挨拶することができる。 ・ 自分で靴下が履ける。・ マットを片付けることができる。
--------------	--	--	--

「特別活動」学習指導案（略案）

指導者 有吉 正記

1. 日 時 平成30年〇月〇日（〇） 第6時限（14：30～15：15）
2. 対 象 中学部2年 生徒4名
3. 場 所 中学部2年生教室
4. 単元名 病院の受診
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルールについて考えさせる。一人で通院・受診できる力を培わせたいが、個人差があるので、支援を仰ぐ場合にも、通院・受診方法の流れを理解させたい。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・発問・支援	留意点や(予想される反応)等
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・病気になった時の対処方法を過去の経験にもとづいて発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の内容を振り返す。 ・本時の予定を伝える。 ・「体の具合が悪くなったときどうしてきたのか。」を、質問する。 ・発表や言語表現が難しい場合は、スムーズになるように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を高めるように説明・質問する。 ・始め、焦点をしぼらずに、質問する。 (寝る。親に聞く。親に訴える。病院に行く。様子を見る。ほっておく。家にある薬を飲む。体温を測る。など)
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の診療科について 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている診察科（受診科）や病院のことを質問する ・症状をあげて、どの科に受診すべきか質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな診察科（受診科）・病院が、あることを、知らせる程度にする。 (内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科など) (総合病院、診療所など)
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院で受診（受付）する方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に受診するための必要書類を質問する。 ・病院の受付方法の一例を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> (・保険証、医療証、診察券、お薬手帳、お金など) ・病院の受付の流れとし

<p>展開②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診察医に症状の訴える方法 ・ 帰宅後、心配な点を尋ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問診票を使って、実際に自分の情報を記入させる。例えば風邪で受診する場合で考えさせる。 ・ 記入が難しい場合は、声掛けをする。 ・ 医者に尋ねておいたほうがよいことを、考えさせてみる。 	<p>て、主訴を伝える→事務手続き（保険証、医療証、診察券の提出）→問診票による病症の記入方法→診察待ち→診察→会計（支払い、薬や処方箋の受け取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病症は問診票、口頭で直接訴える。（いつから、どの程度、どこの場所が苦痛か） ・ 実際、直接、口頭で伝えられない場合は、受付にて、代筆依頼の方法を知らせる。 ・ 入浴、食事、投薬など
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば、病院の受付から受診までを、実習させる。または、問診票を書かせる。 ・ プリントを配付し、本時の内容をまとめさせる。 	

「自立活動（リズム）」学習指導案

指導者 T1：成相 純太
T2：松浦 紫陽
T3：宇都宮ちなみ
T4：谷澤 愛乃

1. 日時 平成30年〇月〇日（〇） 第2時限（9：50～10：40）
3. 対象 高等部普通科1・2・3年C類型 生徒8名
2. 場所 高等部普通科C教室
4. 題材名 ダンス「ワルツ」
5. 題材の目標
 - ・ワルツのリズムや曲想を知る。
 - ・ワルツの基本的なステップを覚えて踊る。

6. 指導にあたって

（1）生徒観

本学習グループの生徒は音楽が好きで、休み時間の度にピアノを弾いたりタンバリンを叩いたりする生徒がいれば、それを聞いた生徒も手拍子をしたり体を揺らしたりしている。一方で、「静かに待つことが苦手である」「正しい姿勢を保つのが難しい」「言葉で表現することが難しい」等の状況がある。個々に見え方は違うが、いずれもボディイメージをしっかりと持って体を動かすことが必要な生徒である。

（2）教材観

ダンス曲として「ライム・ライト」を使用する。これまでに「ジルバ」「ルンバ」「パソドブレ」「サンバ」に取り組んでおり、4拍子のリズムの基本的なステップを身につけてきた。今回の「ワルツ」は3拍子のリズムのダンスで、2拍目のステップが特徴的である。ワルツのダンスに取り組むのは初めての生徒もいるが、ゆったりとした音楽で親しみやすく、ワルツを知るのに適切な曲だと考える。

（3）指導観

生徒が演奏・ダンスをする時と指示を聞く時の区別をしっかりと持てるよう、また興味関心を持って取り組める雰囲気づくりを工夫しながら進めていきたい。

本時は、3種類のステップを覚え、練習の中でワルツのリズムを感じることを目標とする。

授業形態はTTで、主担当が授業を展開し、他の教員との連携により、個々にダンス練習をする場面も作りながら進めていく。

7. 題材の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
・ワルツのダンスに意欲的に取り組んでいる。	・3拍子のステップの中で、2歩目をたっぷりと表現することを考えることができる。	・3種類のステップを踏むことができる。	・ワルツがヨーロッパで生まれたダンスであることを理解する。

8. 単元の指導と評価の計画（全7時間、本時は第6時）

次	時	学習内容	評価規準			
			A 関心・意欲・	B 思考・判断・	C 技能	D 知識・理解
第一	1	・「ライム・ライト」を聴く。 ・1つ目のステップの練習。	○			○
第二 次	2	・1つ目のステップの確認。 ・2つ目のステップの練習。	○			○
	3	・2つ目のステップの練習 ・3つ目のステップの練習	○			○
	4 本時	・すべてのステップの確認と練習	○	○	○	
第三 次	5	まとめ ・生徒同士でペアを作って練習。 ・ひとりずつ発表する。	○	○	○	

9. 本時

(1) 本時の目標

- ・3種類のステップを覚え、練習の中でワルツのリズムを感じる。

(2) 本時の評価規準

- ・3種類のステップを覚え、音楽に合わせてタイミングよくステップを踏むことができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

CD「社交ダンス～ポピュラー編ベスト」より「ライム・ライト」

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	全盲。光覚あり。 発語は不明瞭で歌唱ではフレーズの	・右足から動かすことを理解する。 ・前後左右の動き	・ダンスの際、体重移動がしやすいように、手で支え	・曲の初めは声かけなしで右足から動かすことが

	<p>最後まで歌うことが多い。 肢体不自由があるが、リズム感はよく、タイミングよく体を動かすことができる。</p>	<p>を覚える。</p>	<p>る。必要に応じて前後左右の声かけを行う。</p>	<p>できる（C） ・タイミングを合わせてステップを踏むことができる（C）</p>
B	<p>全盲。光覚あり。 絶対音感があり、リズム感もあるが、集中することが難しく、友だちと同時に活動することが難しい時もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の順番のときに踊る（2回） しっかりと立って踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> ダンスに気持ちが向かない時は、少し待って、切り替えることができるよう声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 順番がきたらスムーズに踊ることができる（A） よい姿勢で踊ることができる（C）
C	<p>弱視。 歌うことが好きで、高音では綺麗な発声をする事ができる。 速い動きは苦手だが、集中して練習に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> できるようになるまで練習に集中する。 3種類のステップを正確に踏む。 	<ul style="list-style-type: none"> 足の位置を丁寧に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して練習することができる（A） タイミングを合わせてステップを踏むことができる（C）
D	<p>全盲。 友だちと歌っている時に、替え歌を歌うことがある。 こだわりが強く、耳に手を当てたまま離せないこともある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手と手をつないで踊る。 3種類のステップを正確に踏む。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手と向かい合って手をつなぐことができるよう、必要に応じて声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 耳に手を当てずに踊ることができる（A） タイミングを合わせてステップを踏むことができる（C）
E	<p>全盲。光覚あり。 音楽が好きだが、静かに待つことが苦手である。 絶対音感があり、記憶力もいいが、自分の思いで授業を進めようとするこ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の指示を最後まで聞く。 3種類のステップを正確に踏む。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備ができるまで待つ時間を作る。 次に何をするか確認しながら練習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示が終わるまで静かに聞くことができる（A） タイミングを合わせてステップを踏むことができる（B、C）

	とがある。			
F	<p>全盲。 ピアノを弾くことは大好きだが、歌うことは苦手である。 リズム感がよく、ダンスをすぐに覚えることができるが、アレンジしてしまうこともある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンフレーズの間声を出して歌う。 ・3種類のステップを正確に踏む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う時はずっと声を出すよう声かけを行う。 ・ステップと姿勢のつながりをイメージして踊れるよう声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンフレーズ歌うことができる（A） ・タイミングを合わせてステップを踏むことができる（B、C）
G	<p>弱視。 音楽が好きだが、自分の好きな曲をリクエストすることが多い。 気持ちの切り替えに時間がかかることがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に参加する。 ・しっかりと立って踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かない時は待つ時間を作る。 ・どう動くか声かけをしながら練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番がきたらスムーズに踊ることができる（A） ・タイミングを合わせてステップを踏むことができる（C）
H	<p>全盲。 歌うことは出来ないが、聴くことが好きである。 リズム感はいいが、集中力を持続させることは難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良い姿勢で踊る。 ・前後左右の動きを覚えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルに足が動かせるよう、初めはゆっくりから練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い姿勢で踊ることができる（C） ・タイミングを合わせてステップを踏むことができる（C）

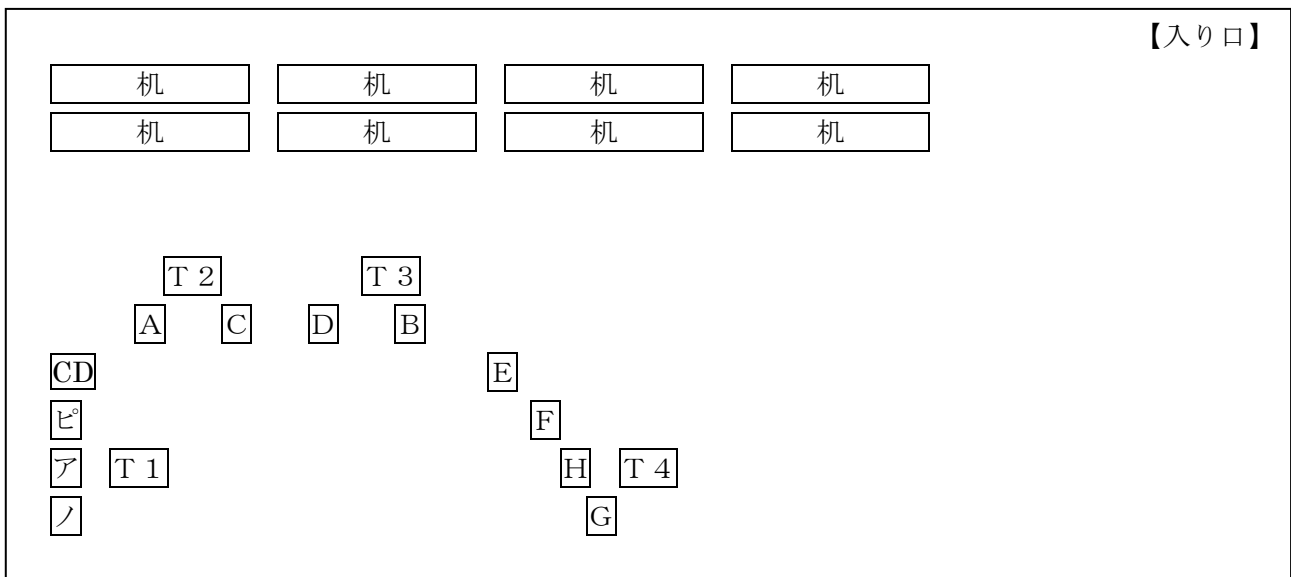
(5) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・始まりの歌を歌う。 ・今日の1曲目を歌う。 ・鈴ロープをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まることの確認。 ・左右どちらから名前が呼ばれるか確認。 ・準備物：歌詞カード ・準備物：CD、鈴ロープ 	

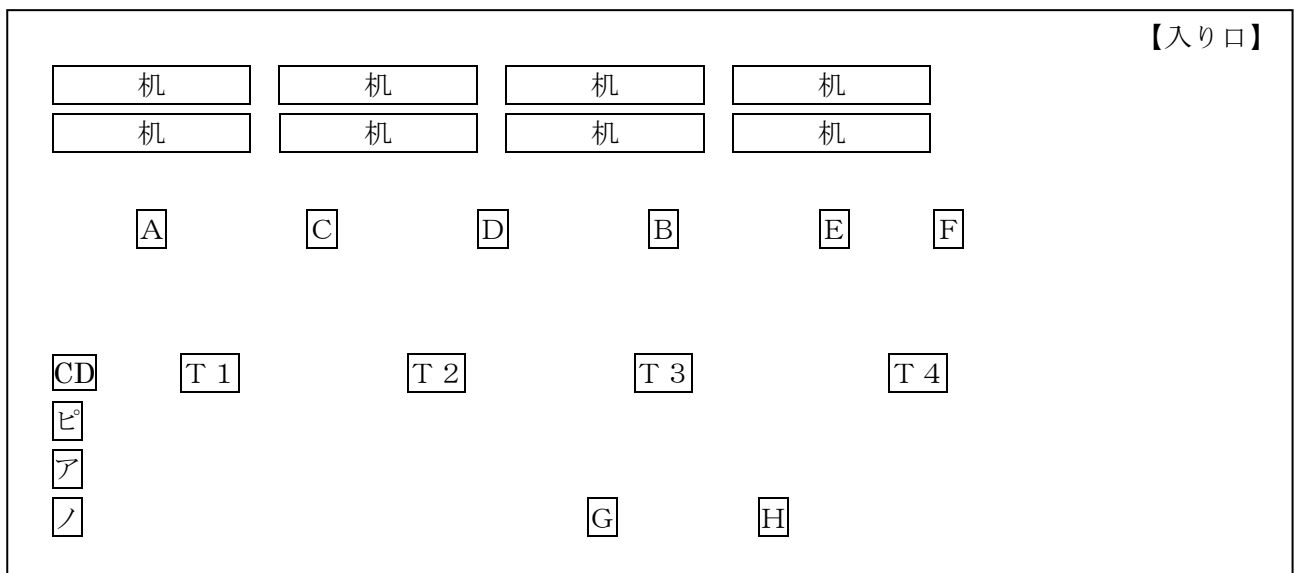
<p>30分 展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ライム・ライト」を聴く。 ・3種類のステップの説明を聞く。 ・ステップの確認と練習を順番に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備物：CD ・説明の時はゆっくりなテンポで確認しながら進める。 ・2～3人ずつのグループに分け、個別で確認する。 1つ目のステップ：基本ステップ。 2つ目のステップ：男性基本ステップ+手の動き。女性右ターン。 3つ目のステップ：横へのステップ。 	<p>【A】(行動の観察)</p> <p>【B・C】(行動の観察)</p>
<p>10分 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の自分のダンスを振り返る。 ・次時の予定を聞く。 ・なかよし体操をする。 ・終わりの時間を歌う。 ・あいさつをする。 		

(6) 教室配置等 (幼児児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す)

・前半



・後半



「保健体育科 保健体育概論」学習指導案（略案）

指導者 T 1 上田 航
 T 2 渡邊 史子
 T 3 木下 和之
 T 4 谷澤 愛乃

1. 日 時 平成31年〇月〇日(〇) 第2時限(9:45~10:30)
2. 対 象 高等部専攻科保健医療科1・2年生 生徒6名
3. 場 所 グラウンド
4. 単元名 サッカー
5. 単元の目標(ねらい)
 - ・自身の体力を見極め安全に健康的に体を動かす。
 - ・普段使う機会の少ない足を使った運動で下半身の筋力の維持・強化を目指す。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、挨拶 ・ラジオ体操、ストレッチ ・本時の授業内容の確認 ボールコントロール シュート 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の確認 ・体操の助言をする。 ・本時の予定を伝える。安全に取り組むことを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康状態が理解できる。 <p style="text-align: center;">【知識・理解】</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ ①ボールの奪い合い (手を使う。足を使う。) ②両足タッチ ③インサイドタッチ ④笛に合わせたボールタッチ (足の裏、おしり) <ul style="list-style-type: none"> ・ボールコントロール (パス回し) ①円になってパスをする。 ②受け手の一つ先の名前を呼びパスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によっては教員と生徒で役割を入れ変える。 ①体全体を使ってボールを奪うようにさせる。 ②③④膝下でボールコントロールするように指導する。 生徒によって回数、強度を大きく変える。 ・休憩を入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・複数でのパス回しをさせる。声かけ、受け手の名前をしっかりと呼ぶようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体を使ってボールを奪うことができる。 ・足で正確にボールコントロールすることができる。 <p style="text-align: center;">【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい声かけができる。受け手先を瞬時に判断することができる。 <p style="text-align: center;">【意欲・態度】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールコントロールからのシュート ①フリーでシュート ②DFをつけたシュート ③複数でのシュート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールコントロールとシュートの二つの動作を複合的に行わせる。慌てないように声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートまで正確にボールをコントロールすることができる。 【意欲・態度】
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の話を聞くことができる。 【知識・理解】

「自立活動（個別）」学習指導案（略案）

指導者 牧内 直子

1. 日 時 平成30年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対 象 高等部普通科3年C類型 生徒1名
3. 場 所 高等部普通科C教室、高等部学習室、A棟1階トイレ
（歩行はC棟1F高等部普通科C教室～寄宿舍職員室～C棟階段～A棟3F高等部学習室～C棟階段～C教室）
4. 単元名 手引き時の白杖の持ち方、日常生活動作、作業訓練
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・手引き歩行時の白杖の持ち方に慣れる。
 - ・言語によるコミュニケーションを意識する。
 - ・指示された作業に集中して取り組む。
 - ・更衣、排泄時に必要な動作を練習する。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・本時の学習内容の確認 注意点の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返らせる。 ・本時の予定を伝える。好きな場所への移動や興味のある作業に取り組むことを伝え意欲を高める。注意点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を振り返り言葉で伝えることができる。【思】 ・指導者の話を静かに聞き取ることができる。【関・意・態】 ・手引き時の白杖の持ち方を振り返ることができる。【知・理】
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きで白杖歩行する。（C教室～寄宿舍） ・寄宿舍職員に訪問した目的を言葉で伝える。 ・手引きで白杖歩行する。（寄宿舍～階段～A棟3F学習室） ・指示に合わせて粘土を使った作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白杖の持ち方を確認しながら声掛けをする。 ・目的を持って歩行させる。屋内外、階段などの環境の変化に対応できるようにする。 ・言語表現がスムーズにできるよう声掛けをする。 ・手指を使う作業を指示する。必要に応じて声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく白杖を持ち、手引き歩行することができる。【意・態】 ・言語で意思を伝えることができる。【意・態】 ・会話を楽しむことができる。【関・意・態】 ・指導者の指示を聞いて作

	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きで白杖歩行する。(A棟 3F 学習室～階段～C教室)・トイレへ移動し排尿後トイレットペーパーをちぎる練習をする。 ・教室に移動し、通学服に着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿後、声掛けをしてトイレットペーパーを引き出すように促す。必要に応じて指導者が手を添え、動作の確認をする。 ・手に取りやすいよう通学服を床に置く。必要に応じて声掛けをする。 	<p>業することができる。</p> <p>【意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレットペーパーを引き出し、ちぎることができる。【意・態】 ・自発的に更衣に取り組むことができる。【意・態】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の話を静かに聞くことができる。 <p>【関・意・態】</p>

「英語科 合同英語（コミュニケーション英語基礎・コミュニケーション英語Ⅰ・英語表現）」

学習指導案（略案）

指導者 滝口 寛紀

1. 日時 平成31年〇月〇日（〇） 第1限（8：50～9：40）
2. 対象 高等部普通科1・2・3年 生徒4名
3. 場所 高等部2A教室
4. 単元名 手紙 A Thank-you Letter
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・英語で基本的な会話をする。
 - ・iPadを使って単語を調べる。
 - ・お祝いの時に使われる表現を学ぶ。
 - ・絵文字の意味を知る。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	留意点・評価規準 視覚障がいの専門性
導入 25分	<p>あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・How are you? ・How was last weekend? ・What did you do? <p>曜日・日付・天気の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What day of the week is it today? ・What date is it today? ・How is the weather? <p>単語調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・How do you say 卒業式 in English? 	<p>※授業を通してできるだけ英語で問いかけて、理解がむずかしいようであれば日本語で言い換える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ名前を呼び、質問して、3語以上の文で答えるように促す。 ・問いかけて、単語とその綴りを質問する。また、適切な文字の大きさをホワイトボードに答えを示す。 ・一人に一台iPadを配り、調べる単語を伝える。 ・5分以内に調べるように伝えて、時間になったら単語を発表するように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を聞いて3語以上の英文で答える。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・正しいスペルを答えて書ける。 【言語や文化についての知識・理解】 ・単語を調べることができる。 【言語や文化についての知識・理解】

		<ul style="list-style-type: none"> ・適切な文字の大きさをホワイトボードに答えを示す。 ・次回は例文を調べることを伝える。 	
展開 20分	手紙についての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の質問をする。 ①手紙を書く習慣があるか ②どんな時に手紙を書くか ③どんな内容が書かれているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に答える。 【関心・意欲・態度】
	英文 Thank-you Letter の黙読 内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配り、3分間黙読して内容を確認するように声をかける。 ・以下の質問をする。 ①何の英文か ②送り手と受け手は誰か ③どんな時に書かれた手紙か ④どんな内容が書かれているか ・一文ずつ読んで内容を確認していく。 ・本文の4行目までの予定だが進度によってさらに進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読んで内容を理解する。 【外国語理解の能力】 【言語や文化についての知識・理解】 ・英文を聞いて内容を理解する。 【外国語理解の能力】 【言語や文化についての知識・理解】
まとめ 5分	手紙の内容と表現についての復習 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな内容が書いてあったか ・送り手の前に書いてある表現は ・お祝いをするときの表現は ・お礼の表現は ・絵文字の意味は ・次回の学習内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に答える。 【言語や文化についての知識・理解】

「あん摩(実習)」学習指導案(略案)

指導者 T1 下川 浩史
T2 中垣 幸一

1. 日 時 平成30年〇月〇日(〇) 第4時限(11:50~12:40)
2. 対 象 高等部専攻科保健理療科2年・理療科2年 生徒6名
3. 場 所 理療科第4実習室
4. 単元名 主要症状(腰痛)に対する問診・診察
5. 単元の目標(ねらい)
 - ・問診・診察・検査の各項目において、その方法と意図を理解させる。
 - ・臨床実習において活用し、今後の施術に役立てる。

6. 本時の展開

	学習活動	指導上の注意事項	評価基準
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつと出欠の確認 ・ 腰痛の患者数、ADLやQOLの支障についての説明 		
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の「腰痛の問診・診察」の必要性についての説明 ・ 問診では、腰痛に特徴的な項目について、病態と症状を説明する。 ・ 診察・検査では、立位・座位・臥位とスムーズに進めるように説明する。 ・ 主な診察・検査について実演し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問診・診察・検査の各項目において、その意図を説明する。 ・ 解剖学、臨床医学総論の既習事項について病態、診察・検査の説明の中で発問を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腰痛の問診・診察において、各項目の方法と意図を理解できたか。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時において説明した内容を確認し、生徒への発問をしながら定着度を確認する。 		

「基礎保健理療（経絡経穴概論）」学習指導案(略案)

指導者 富田 千文

1. 日 時 平成30年〇月〇日(〇) 第4時限(11:50~12:40)
2. 対 象 高等部専攻科保健理療科1年 生徒3名
3. 場 所 理療科第5実習室
4. 単元名 II. 十四経脈とその経穴
5. 単元の目標(ねらい)
 - ・本章では、十四経脈の流注、および、それに所属する経穴の名前と部位を学習する。本時では、足の厥陰肝経に所属する経穴8穴（LR1~LR8）の取穴を行い、部位を理解する。

6. 本時の展開

	学習活動	指導・支援	留意点・評価規準 視覚障がいの専門性
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した、足の厥陰肝経の経穴8穴について、名前と順序を確認する。 	
展開① (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・足の厥陰肝経の経穴8穴の取穴 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1名がモデル役となり、残り2名の生徒が片側の下肢でそれぞれ取穴を行い、その部位にシールを貼る。 ・取穴に際しては、経穴の名前と部位、指標となる骨や筋の触察が正しくできているかを確認しながらすすめる。 	
展開② (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の膝関節部と足関節部の経穴の取穴 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1名がモデル役となり、残り2名の生徒が片側の下肢でそれぞれ取穴を行い、その部位にシールを貼る。 ・既習の足の経脈について、膝関節部と足関節部にある経穴の名前と部位を、発問しながら整理する。 ・取穴に際しては、指標となる骨や筋の触察が正しくできているかを確認しながらすすめる。 	

まとめ	・ 本時の学習内容の確認	・ モデル役の生徒に貼られたシールを見ながら、足の厥陰肝経の経穴の名前、膝関節部と足関節部の経穴の名前と所属経脈を確認する。	
-----	--------------	--	--

「人体の構造と機能（解剖学）」学習指導案（略案）

指導者 西谷 信和

1. 日時 平成30年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対象 高等部専攻科理療科1年 生徒3名
3. 場所 高等部専攻科理療科1年教室
4. 単元名 第8章 神経系
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・中枢神経系および末梢神経系の構造と機能について学習する。

6. 本時の展開

	学習活動	留意点	評価基準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習した内容の復習を行う。 		
展開① (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳の概要、主な大脳溝、大脳葉について説明する。 ・説明に際しては、事前に配付したプリント及び図譜を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書に際しては、書かれている内容を口頭で説明しながら行う。 ・模型の触察については、生徒の視力に配慮し、個別に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な大脳溝については、模型でその部分を触察することができるか。
展開② (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・次に模型を用いて、触察しながらさらに理解を深める。 ・必要に応じて板書を用いながら説明を行う。 		
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した内容についてその理解度を確認する。 		

「臨床応用」学習指導案（略案）

指導者 西山 徹

1. 日 時 平成30年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対 象 高等部専攻科理療科3年 生徒3名
3. 場 所 理療科第1治療室
4. 単元名 模擬臨床
5. 単元の目標（ねらい）
 - ・学期当初から臨床に応用できる手技を指導してきた。2学期中頃からは特定の教員に協力してもらい、それぞれの主訴に対する治療を試行錯誤しながら行ってきた。そして今回、その成果として模擬臨床を行うことを計画した。模擬患者は事前に本校教職員から希望を募り、予診票にご協力頂き、当日の授業直前に各生徒に提示している。
 - ・この時限の目標としては、患者に対して真摯的な態度で接遇し、主訴に応じた適切かつ効果的な施術を行い、主訴を改善するなどの治療結果を出すことである。治療結果を判断するためにも施術の前後に行う評価は重要となる。

6. 本時の展開

	学習活動	留意点	評価基準
導入 (5分)	・研究授業・模擬臨床の説明をし、授業直前に渡した予診票に基づき、主訴と施術方法について各生徒と検討する。		
展開① (5分)	・各生徒の問診および施術前評価が上手くできているか、ベッドを回りながら助言・技術指導を行う。	・各生徒は、患者に問診および施術前評価を行い、施術の説明を行う。	
展開② (30分)	・各生徒が適切かつ効果的な施術ができているか、ベッドを回りながら助言・技術指導を行う。	・各生徒は、真摯な態度で接遇し、適切かつ効果的な施術を行う。	

<p>展開 ③ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒の施術後の評価が上手くできているか、また、治療結果は良かったか、ベッドを回りながら助言・技術指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒は、治療結果をみるために施術後の評価を行い、施術前と比較する。また、患者に症状や状態の変化を聞く。 	
<p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒から治療結果を聞き、施術について助言指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒は、模擬臨床の反省を行う。 	